2　地理歴史・公民

学校番号	４１７

平成３１年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ｂ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	２　東書　３１０「日本史Ｂ」　（東京書籍）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・時期や環境をイメージしながら、基本的な事柄を理解しましょう。
・歴史的事象の因果関係に注意して学習するようにしましょう。
・歴史的建築物や作品について、資料を活用したり、実際に目で確かめてみましょう。

2　学習の到達目標

・日本史の展開を、世界史的分野に立って総合的に考察させる。
・日本の文化と伝統の特色についての認識を深めさせる。
・歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	○歴史的事象と現在との結び付きを意欲的に調べ，考え，歴史を学ぶ意味に気付き，関心をもって主体的に学習に取り組めているか。 ○現代の社会が抱える諸課題について，平和で民主的な世界，地域，国，社会を形成していく主体としての自覚をもって考える態度を身に付けているか。	○日本の歴史の展開から課題を見出し，世界の歴史や国際環境等と関連付けて，実証的，多角的，多面的に考察しているか。 ○歴史的に形成された諸課題について，さまざまな理解・立場があることをふまえて，公正に判断しているか。 ○課題についての考察や判断の過程や結果を，適切な方法を選んで効果的に表現しているか。	○日本の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し，有用な情報を適切に選択することができるか。 ○得られた資料や情報を効果的に活用し，歴史を探求する学び方を身に付けているか。	○基本的な歴史事象に関する知識を身に付け，各時代の特色を理解しているか。 ○日本の歴史の展開を，地理的条件や世界の歴史と関連付けて理解しているか。
評価方法	ワークシート ノート 〔主題学習〕 グループワーク	定期考査 ワークシート ノート 〔主題学習〕 グループワーク	定期考査 ワークシート ノート 〔主題学習〕 グループワーク	定期考査 〔主題学習〕 確認テスト
	※「主題学習」とは主題を設定して行う学習活動で、適切な時間を確保して行う。			

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	ヨーロッパ文化との接触と国内統一	・ヨーロッパ文化との接触 ・織豊政権による全国統一 ・桃山文化	○	○	○	○ ○	a：戦国時代と海外のつながりについて意欲的に追求しようとしている。 b：ヨーロッパ文化と戦国大名とのつながりやそれに関する時代変化について考察し、自らの考えを適切に表現している。 c：長篠の戦いの資料などから、中世の戦いと比べて、どのような点が変化しているか、史料から的確に読み取っている。 d：織豊政権による全国統一までの流れやその時のヨーロッパとの関わりについて基本的な知識を身につけている。	定期考査 ワークシート ノート
	幕藩体制の成立	・江戸幕府と大名・朝廷 ・身分制度の確立 ・キリスト教禁止と鎖国	○	○	○	○ ○	a：江戸幕府時になぜ他国との関係を切って鎖国政策をとったのか具体的に追求しようとしている。 b：幕府と大名の関係性において、なぜそのような関係が結べたのか、多面的多角的に判断しようとしている。 c：絵ふみの史料などを用いながら、なぜキリスト教信者を幕府は厳しく取り締まったのかを考え、読み取る事ができる。 d：江戸幕府の将軍と大名の関係性や、身分制度について、基本的な知識を身につけている。	定期考査 ワークシート ノート
	近世社会の発達と町人文化	・幕府政治の進展 ・経済と産業の発達 ・学問の新傾向と元禄文化 ・	○	○	○	○ ○	a：幕府中期の経済産業の発達について感心をもち、どのように発展していったかを意欲的に追及しようとしている。 b：幕府中期に起こった経済産業の発達の背景を考察し、自らの言葉で適切に表現している。 c：史料を見ながら儒教という学問が新たに入ってきた流れなどを時代背景に絡めながら読み取る事ができる。 d：幕府中期の進展や、学問発展について多面的多角的に理解し、基本的な知識を身につけている。	定期考査 ワークシート ノート

2学期	幕藩体制の動揺と庶民文化の発達	・幕藩体制の動揺と政治改革 ・幕藩体制の危機 ・新しい学問の形成と化政文化 ・	○	 ○	 ○	○ ○	a：徳川吉宗の享保の改革についてどのような政策があったかについて関心を持ち、意欲的に追求しようとしている。 b：これまで長く続いてきた幕藩体制がなぜ危うくなってきているのかを時代背景に沿って、多面的多角的に考察することができている。また外国との関わりについても取り上げていき、より深いところでの考察・判断ができるようにする。 c：異国船打ち払い令の史料を活用しながら、なぜ幕府は外国に対してこのような法令を出したのか、当時の時代背景と絡ませながら読み取っている。 d：江戸後期の化政文化について理解するとともに、元禄文化との違いなどにもふれながらより深い知識を身につけていく。	定期考査 ワークシート ノート グループワーク 確認テスト
	開国から明治維新へ	・開国 ・幕府の滅亡 ・統一国家の成立 ・近代国家をめざして ・殖産興業と文明開化 ・明治初期の国際情勢	○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○	a：江戸幕府中期から開国までの流れについて当時の外国の動きなども理解しながら、なぜ幕府が開国を行ったかについて意欲的に追求しようとしている。 また明治政府の始まりや制度についても深く理解しようとする意欲がある。 b：幕府がなぜ倒れ、明治政府が設立されたのかという流れを自らの言葉で適切に表現している。また外国との関わり方も踏まえながら幕府がなぜ倒れてしまったのかを考察することができる。 c：開国時の史料や当時の世界情勢の史料なども踏まえながら、なぜ幕府が開国をし、滅亡へと進んでいったのかを読み取る事ができる。 d：開国までの流れ、そこから明治政府設立までの展開を当時の世界情勢とも踏まえながら、的確に理解し、説明できる知識を身につけている。 明治政府の国際情勢について、世界との関わりも絡ませながら、多面的多角的に理解できている。	定期考査 ワークシート ノート グループワーク 確認テスト

3学期	立憲政治の形成と国民文化	・政府専制への批判 ・立憲政治の成立 ・新しい文化の形成	○		○	○	a：国会開設の要求から自由民権運動への流れを時代背景と絡ませながら意欲的に追求しようとしている。 b：明治時代の立憲政治の成立について、なぜ明治政府は憲法を作ろうとしたのか、時代背景に沿いながら考察し、表現することができる。 c：憲法制定から条約改正までの道のりを史料から読み取る事ができる。また、そこから明治政府と外国のつながりを的確に把握することができる。 d：明治政府特有の文化について、史料なども活用しながら、基本的な知識を身につける。	定期考査 ワークシート ノート
	デモクラシーと第一次世界大戦	・第一次世界大戦と日本 ・揺れ動く経済と中国侵略の本格化	○	○	○	○	a：明治から大正へと時代が転換していく中で世界情勢と絡ませながら、戦争へと進んだ道筋を意欲的に追求しようとしている。 b：２０世紀初頭の日本と世界の繋がりや、関係について、時代背景に沿いながら考察し、歴史の流れを把握することができる。 c：教科書に載っている第一次世界大戦の史料を活用しながら、日本とヨーロッパとの繋がりや、当時のヨーロッパの国際情勢について把握することができる。 d：大正時代のデモクラシーや戦争などの動きについて、史料なども活用しながら基本的な知識を身につけることができる。	
	激動する世界と日本	・日中戦争と国内体制の改編 ・太平洋戦争 ・占領と日本国憲法の成立 ・国際社会への復帰と高度経済成長	○ ○	○	○	○ ○	a：日中戦争から第二次世界大戦、そして太平洋戦争と昭和の戦争の流れや、なぜ日本がそういった道をたどっていったのかについて、意欲的に追求しようとしている。 b：２０世紀中ごろに行われた戦争について、なぜ日本は外国との開戦に踏み切ったのか、時代背景を考察しながら把握することができる。 c：教科書の史料などを活用しながら、当時の日本と海外の関係性であったり、戦争の悲惨さなどにも触れながら、多面的に昭和の戦争の歴史を捉え、理解をさせていく。 d：昭和の日本と外国の情勢なども踏まえながら、開戦までの道筋や、開戦後の日本の動きなどについて理解することができる。	

	占領と国内改革	・占領と日本国憲法の成立 ・国際社会への復帰と高度経済成長	○ ○	○	 ○	○	a：太平洋戦争を終えて、近現代史へと進む中で、日本国憲法の内容や、社会情勢の変化などについて、多面的多角的に理解しようとする意欲がある。 b：戦後の憲法改正について、大日本帝国憲法と日本国憲法の違いを理解し、なぜアメリカは日本国憲法の内容を求めてきたのか、時代背景を踏まえながら、考察できている。 c：戦後から高度経済成長期にかけての流れについて、日本がどのようにして国際社会に復帰し、「もはや戦後ではない」という言葉が生まれるまでになったのはなぜか、戦後の経済指標の史料などを活用しながら、把握することができる。 d：戦後から国際社会に復帰するまでの日本の流れや外国との繋がりにおいて、多面的多角的に理解することができる。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。